

掲示板のことば

わたしの国に
生まれたなら
いのちを
きずつけ合い
欲によって
うばい合い
だれかに支配
されることの
ないようによします
『仏説無量寿経』「本願」

2025. 05

この言葉は、浄土真宗の正依の經典『^{ぶつせつむりょうじゅきやう}仏説無量寿経』にある「^{ほんがんにもん}本願文」の第一願を、『真宗児童聖典』より引用しました。法蔵菩薩はいのちあるもの全てを救いたいと四十八の願い(本願)をおこし、その願いを永遠の時間をかけ、全て成就させて阿弥陀仏となります。その本願の第一番目にたてられた願いです。

本願では、法蔵菩薩が、もし私が仏となったならば、このようにしたい、またはこのようにありたい、と誓っておられます。この第一願では、誰もが阿弥陀仏の国(浄土)に生まれたならば、いのちをきずつけ合い、欲によってうばい合い、だれかに支配されることのないようになりたい、と願われています。

この願いは、私たちに向けられていると受け止めております。願いは教えです。この願いから教えられることがあります。それは、私がいのちをきずつけ合い、欲によってうばい合い、だれかに支配され、そして支配しているという事実です。それが私たちの住む世界です。いえ、それは私が作り出している世界です。

でも本当は、そうではない世界を願っているのではないですか、と問いかけられているのです。いのちをきずつけ合うことなく、欲によってうばい合うこともなく、支配し支配されることのない関係を生きてゆきたいと願っているのではないですか、と。この私の本当の願いが聞こえてくるのです。

悲しいことに、その願いが聞こえてくるのは、願いのように生きていないというこの私の事実気づいた時なのです。まさに、「^う恥ずべし、^う傷むべし」です。

でもその時こそ、本当の願いに生きる世界が開かれる時なのでしょう。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹